

第45回 原産年次大会

セッション2

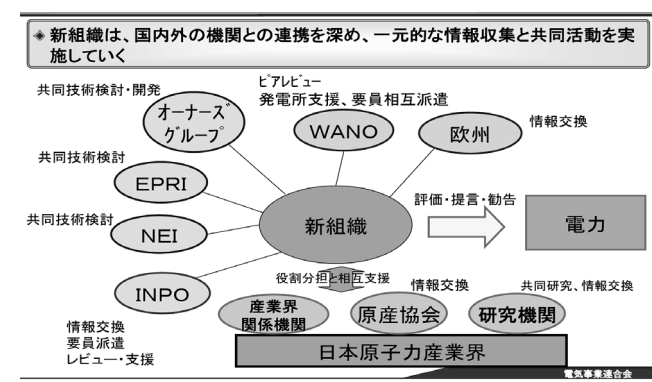
福島事故をふまえて —安全性向上への取り組み

福島第一原子力発電所の事故は、原子力の安全性に対する社会の信頼を大きく失墜させたこととなった。その影響は、日本だけに止まらず、世界の原子力開発を取り巻く環境にも波紋を投げかけた。本セッションでは、今回の事故を反省しつつ、今後も原子力発電利用を継続していくために、日本の原子力界はどう変わるべきか、各国関係者の取組も参考として考察した。議長は、松浦洋次郎氏(元原子力安全委員長)。



八木誠・電気事業連合会会長

各電力会社では、今回のような事故を二度と起こしてはならないとの固い決意のもと、炉心冷却機能や電源の多重化・多様化、浸水対策などの徹底的な安全対策に取り組んで、原子力発電所の安全強化を図りつつある。また、新組織は、事業者から独立した高度な専門性を有し、諸外国の関係機関と密接に連携して、情報収集や安全性向上策の検討を一元的に実施し、シビアアクシデント対策を含む原子力発電所の安全確保対策について、事業者による指導、勧告を行う。



新組織は、国内外の機関との連携を深め、一元的な情報収集と共同活動を実施していく。



マイク・ウエイトマン・英国原子力規制局(ONR)長官

英国における原子力安全性と透明性の確保ととも、なせリスクを受け入れるのか」について、理解を得る必要がある。英国では、事故発生直後から、一万七千人の存在し、合理的に実行可能な限り、リスクを低減することが、法的に要求されている。福島事故を受け、原子力発電所の運転に対する国民不安が増大した。しかし、事故の踏まえた教訓も取りま

月後、WANOの隔年総会が中国で開催されたのだが、これに先立ち、WANO・ポスト福島委員会は、①WANOの活動の範囲を拡大②世界的規模の総合的な事故対応戦略を策定③ヒアリングプロセスおよび成果物すべての品質を含め信頼性を改善④活動の透明性を改善⑤内部の一貫性を改善⑥に関する勧告を行う。総会では、会員から満場一致の支持を得た。これらの措置を進めるため、WANOでは行動計画を定め、スタッフと産業界の専門家からなる国際チームを設置し、特定のトピックに取り組んでいる。パリ・アクトセブタンスの基礎は、事業者と規制者の双方の信頼性により、事故によって揺らぐ行動計画策定、技術支援、フォローアップの好循環を回すことで、継続的な向上を促す。また、福島事故から六

スコット・ピーターソン・米原子力エネルギー協会(NEI)副理事長
二年三月の事故発生後、米産業界は、世界中の多くの同業者と同様に、政府からの命令を待つことなく、対応策を講じた。

米国の産業界は長年、多くのステークホルダーへの積極的なコミュニケーションの重要性を他、政策立案者や公衆の懸念を招く恐れのある事象が起きているときの透明性あるコミュニケーションを重んじている。このような状況下、NEIは、日本と協力して、過去二年間の教訓をコミュニケーションプログラムに適用し、組織的な産業界コミュニケーションを強化したいと考えている。



スコット・ピーターソン・米原子力エネルギー協会(NEI)副理事長

福島事故から、米産業界は多くの教訓を得た。例えば、情報の速さは、インターネットやソーシャルメディアを通じて、今や二十四時間が二十四秒に縮まるほどだ。他国で事故が発生しても、安全性の強化とともに、原子力のメリットについて、マスメディアへの積極的なコミュニケーションをとる必要がある。

「福島第一原子力発電所の現状と今後」
相澤善吾・東京電力副社長
長 原子力・立地本部長
昨年三月十一日の大震災では、約一万六千名の方が亡くなられ、三千名以上の方がいまだに行方不明となっており、犠牲になられた方々に、心から哀悼の意を表した。被災者の皆さまには心からお見舞い申し上げます。

大震災の津波に起因する福島第一原子力発電所十六日には事故の収束宣言が進めたい。



相澤善吾・東京電力副社長

所の原子力災害により、長年発電所を支えてきた立地地域、福島県民、国民、さらには世界各国の方々に迷惑と心配をかけていることを心からお詫言する。当社は、警察、消防、自衛隊、協力する。二年以内に使用済み燃料プールの燃料の取り出しを開始すること、第二期として十年以内燃料プールの取り出しを開始すること、第三期として三十年後から四十年後までに廃止措置を完了させることを目標としており、当社は、国内外に協力を要する。世界全体の安全を確保し、安全に、着実に作業を進めたい。

業界向けの提言を示す。
・電源などの外部への依存状態を見直す。
・福島第一と第二の結核の違いを見直す。
・洪水研究を見直す。
・複数原子炉の十分な安全状態を確保する。
・使用済み燃料管理策の妥当性を確保する。
・発電所のレイアウトを見直す。
・使用済み燃料プールの設計の妥当性を確保する。その他。



セッション総括
TSUJURA

セッション総括
3-11を受け、同じような思いを持っている。また福島第一の事故を振り返ると、福島事故に対して、各者それぞれ違った見方もあるかもしれない。結果として世界で同じようなアプローチがとられているものと思っ



重大なハザードに対する耐性
冷却能力の頑強性
環境被害の防止
安全分析
安全強化
安全手順